

函館市立万年橋小学校

全校児童数：135名 実施学年：第4～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード、
Google Workspace for Education

取組の方法

○ 児童の発達の段階に応じた望ましい学習習慣等の定着を図る取組

(1) 第4学年における取組

家庭学習カード「自主学習貯金」を作成し、学習内容や学習時間を記録させるとともに、カードを共有し、他の児童の取組状況を参考に学習内容の工夫改善を図る

(2) 第5学年における取組

学習アプリ「ミライシード」を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるとともに、児童の学習状況に応じた課題を配信し、習熟度に応じた学習を支援

(3) 第6学年における取組

「Classroom」を活用し、登校時に1日のスケジュールを踏まえた学習目標を児童一人一人に設定させるとともに、下校時に学習目標に対する振り返りを行い、学習内容の工夫改善を図る

教師による1日のスケジュールの提示

【2023/11/14】
日直 []
1 国語 5年生までに学習した漢字 短文づくり/プレテスト
■投票用form <https://forms.gle/aBcfvKw5uy0knp5p6>
2 算数 並べ方と組み合わせ方
■説明用ジャムボード
<https://jamboard.google.com/d/1Mmwd9Zt0Kp1W00Qc0pu2V78Q860>

児童による学習目標の設定

[] 2023/11/14
算数で新しい単元にはいるから集中して頑張る。
[] 2023/11/14
漢字書き字から5年生の漢字を思い出せるように頑張る。

児童による学習活動の振り返り

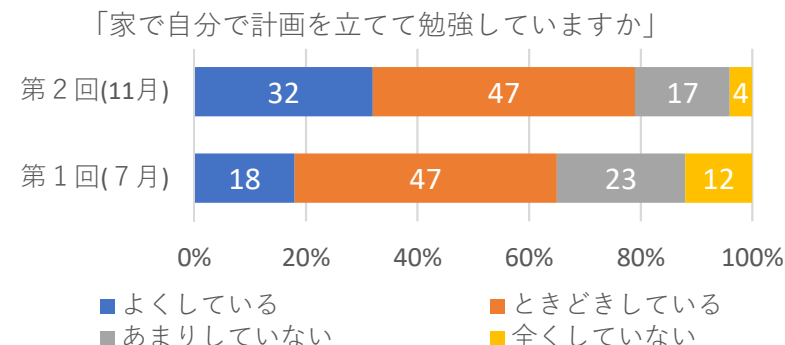
[] 2023/11/14
算数が意外と簡単だった。大久保利通が解けた人が詳しく知らなかったから助けてよかった。
[] 2023/11/14
解しかったけど、集中して頑張れた。

【第6学年における取組】

児童の変容

児童の発達の段階に応じて日常的に学習状況を把握するとともに、振り返る機会を位置付けることにより、「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的な回答をした児童の割合が、7月と比較して、11月では14%上昇した。

学習アプリによる即時のフィードバックが得られることにより、学習意欲の向上が図られ、学習習慣等の定着につなげることができた。



函館市立深堀小学校

全校児童数：250名 実施学年：全学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○ 生活習慣・学習習慣の定着に向けた段階的な1人1台端末の持ち帰りの計画・推進

(1) 夏季休業期間中の持ち帰り

- ・第4学年から第6学年において、「毎日日記」を実施することにより、日常生活への関心を高める
- ※家庭と連携し、事前練習として夏季休業前に週末の持ち帰りを1回実施

(2) 冬季休業期間中の持ち帰り

- ・第3学年から第6学年において、「生活ふり返しシート」を実施することにより、生活習慣・学習習慣の改善を図る
- ※家庭と連携し、事前練習として冬季休業前に週末の持ち帰りを2回実施

(3) 3学期から日常的な持ち帰り

- ・第1学年から第6学年において、「生活ふり返しシート」を活用した日常的な生活習慣・学習習慣の改善を図る
- ・教育クラウドサービスを活用することにより、児童一人一人に応じた家庭学習の充実を図る



生活ふり返しシート (4~6年)

氏名: _____

このシートは、生活習慣・学習習慣の改善を図るために活用します。

※毎日10分程度、学習時間を確保し、ゲーム・動画・テレビの時間を制限し、睡眠時間を確保してください。

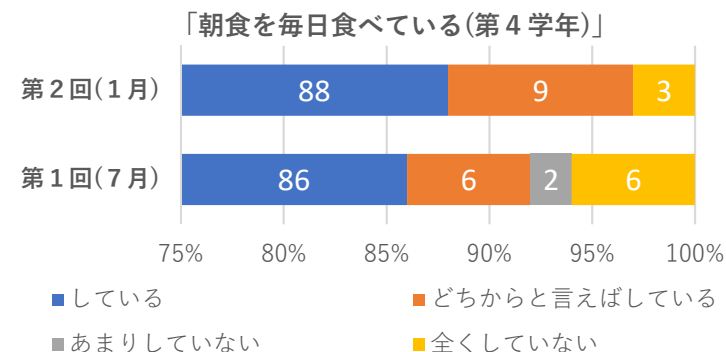
月	日	曜日	学習した時間	ゲーム・動画・テレビの時間	睡眠時間
12月23日	木		40分	30分	9時間
12月26日	日				

【生活ふり返しシート】

■ 児童の変容

継続的に生活習慣を振り返り、改善を図ることにより、「毎日、朝食を食べている」等のアンケート項目において、肯定的な回答をした児童（第4学年）の割合が、7月と比較して、1月では上昇した。

1人1台端末を定期的に持ち帰らせ、宿題や「生活ふり返しシート」等に継続的に取り組ませたことにより、望ましい学習習慣の定着を図ることができた。



帯広市立緑丘小学校

全校児童数：455名 実施学年：第3～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : スマイルネクスト、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

- ・第3学年以上で「スマイルネクスト」を導入し、学習内容の振り返りの場面や放課後学習、家庭学習等で活用した。児童は、個々の到達度に合わせて学習に活用することができるとともに、学級担任は、児童の学習した日が記録されるため、児童の家庭での学習や生活の状況を把握し、家庭学習の進捗を児童と振り返り、目標や改善点を話し合う等の指導を行った。
- ・学級担任は、「Classroom」を活用し、児童が計画性をもって家庭学習の内容を選択することができるよう、次の日の日程や授業内容、連絡事項等を児童と共有した。また、児童が安心して学校生活を送ることができるよう、児童が学級担任に確認したいことがある場合や欠席し学校の様子を知りたい場合に、「Classroom」内で尋ねることができるようにした。

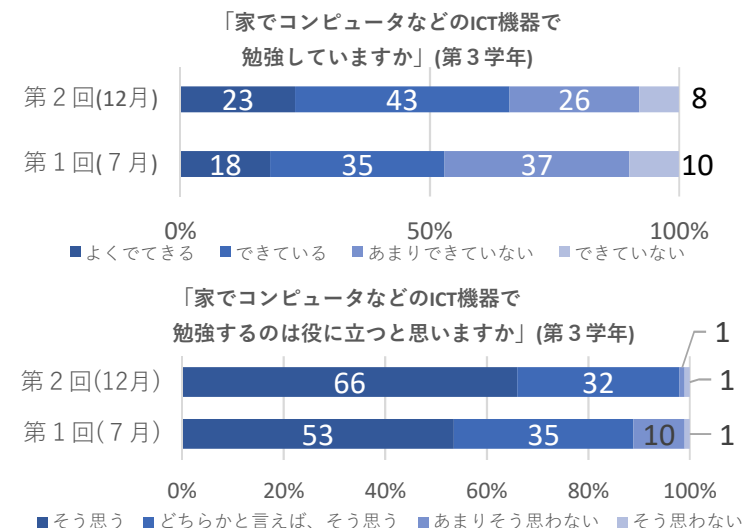
【家庭学習の記録】

■ 児童の変容

第3学年の児童を対象に、学習習慣・生活習慣に関するアンケートを7月と12月に実施した結果、「家でICTを活用して勉強している」「ICTを活用して勉強することは役に立つ」と回答する児童の割合が増加した。

児童からは、「家でコンピュータなどのICT機器を活用することで、学習が楽しくできるようになった」「自分から学習するようになった」等、肯定的な記述が多く見られた。

また、授業で学習したことを発展的に調べたり、復習したりする等、意欲的に家庭学習に取り組む様子が見られ、家庭でのICT機器を使用した自主的な学習習慣の確立につながっている。



釧路市立東雲小学校

全校児童数：95名 実施学年：全学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

① 取組のねらい

クラウドサービスを活用した「生活リズムチェックシート」の取組や、日常の授業内容と関連した家庭学習環境の整備を通して、自主・自律的な学習習慣や生活習慣の確立を図る。

② 実施内容

- ・授業内容を復習し定着を図る宿題及び「家庭学習の手引き」に基づいた家庭学習の実施
- ・中学校区の連携による「生活リズムチェックシート」の実施

③ 実施方法

- ・授業内容と関連付けた宿題を提示し、児童が自ら達成状況を確認
- ・児童が自ら課題や学習内容を設定する家庭学習習慣の定着に向け学級担任や学力向上担当者から児童、保護者へ助言するとともに取組内容を例示
- ・「フォーム」を活用した「生活リズムチェックシート」により、児童の学習、生活習慣を可視化し、全校及び各学級の実態に基づいて指導

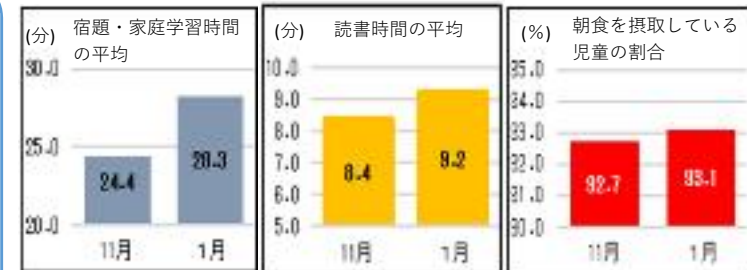
【「生活リズムチェックシート」入力フォーム】

【query関数を用いて分類した学年別シート】

■ 児童の変容

- ・授業内容を復習し定着を図る宿題及び「家庭学習の手引き」に基づいた家庭学習を実施したことにより、児童の宿題・家庭学習に取り組む時間が増加するなど、児童の学習習慣が身に付いてきている。
- ・中学校区の連携による「生活リズムチェックシート」を実施し実態に基づいた指導や、保護者との連携を図ったことにより、「読書時間が増えた」「朝食を摂取している」と回答する児童が増加するなど、児童が自主・自律的に生活習慣を見直すことにつながった。

【「生活リズムチェックシート」の回答集計から】



岩見沢市立第二小学校

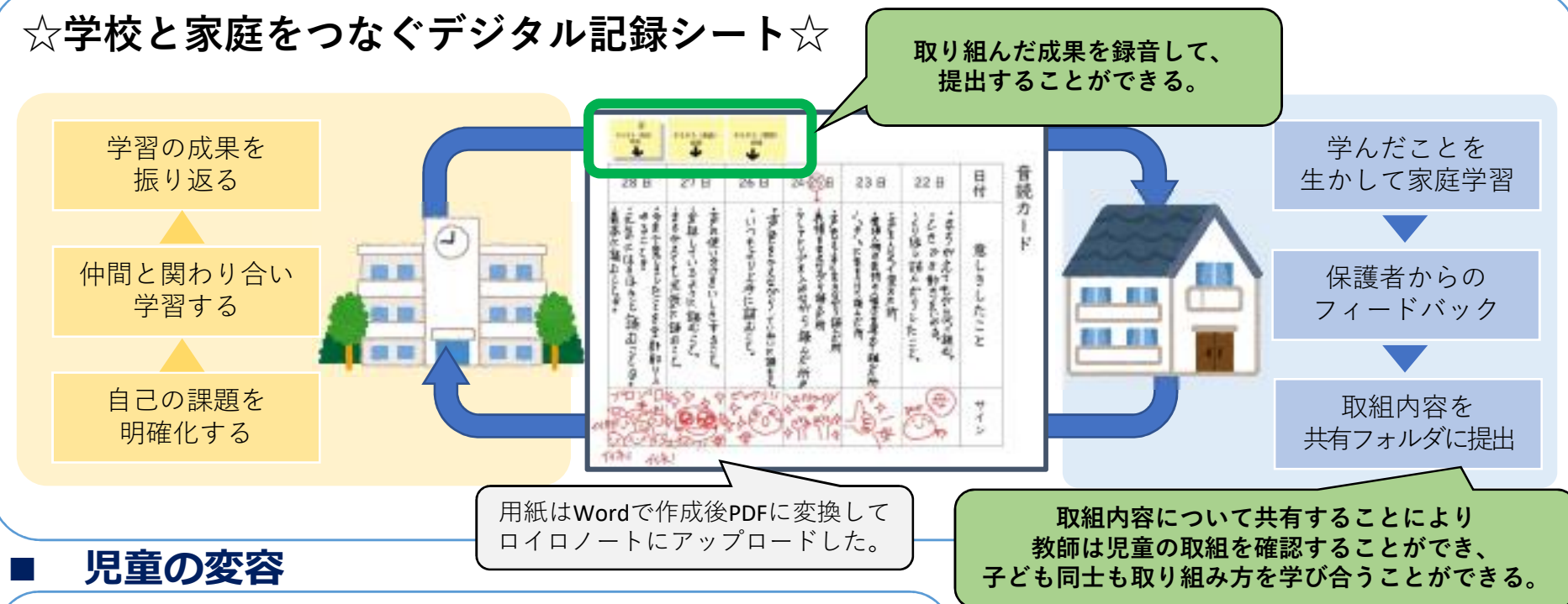
全校児童数：125名 実施学年：第4学年

学習習慣定着モデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : Qubena
アプリ : Qubena、ロイロノート

■ 取組の方法

☆学校と家庭をつなぐデジタル記録シート☆



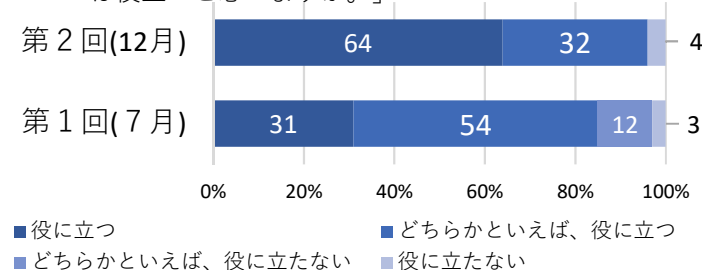
■ 児童の変容

○ ICT機器で勉強することは、役に立つと実感している。

児童が学習履歴を記録することにより、自己の課題が明確になり、改善に向けてより効果的に学習しようとする態度が見られた。

家庭学習の内容について、何を学習すればよいか悩んでいる児童の姿が見られたものの、タブレット端末で学習内容を共有することにより、友達の取組を参考にしながら、自分に合った学習内容を選択して取り組んでいる様子が見られた。

「家でコンピュータなどのICT機器を勉強するのは役に立つと思いますか。」



富良野市立富良野小学校

全校児童数：327名 実施学年：第3～第6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : オクリンク、MEXCBT

■ 取組の方法

◆ 家庭学習での活用

MEXCBT活用による個に応じた指導の充実

- ・ MEXCBTで課題を配信し、児童の取組状況や結果等を把握することで、児童一人一人に応じた支援を充実



【MEXCBTの画面】

◆ 意見や考えを伝える力の育成

自分の発表内容や意見の共有

- ・ ICTを活用して友達のよい意見や発表の仕方を取り入れる場面を設定し、児童同士で学び合う習慣を醸成

◆ 思考の過程の可視化

協働的な学びの実現

- ・ ICTを用いて思考を可視化し、授業内外において、児童同士の交流を促すとともに、学級担任が児童一人一人の学習状況を把握し適切に支援



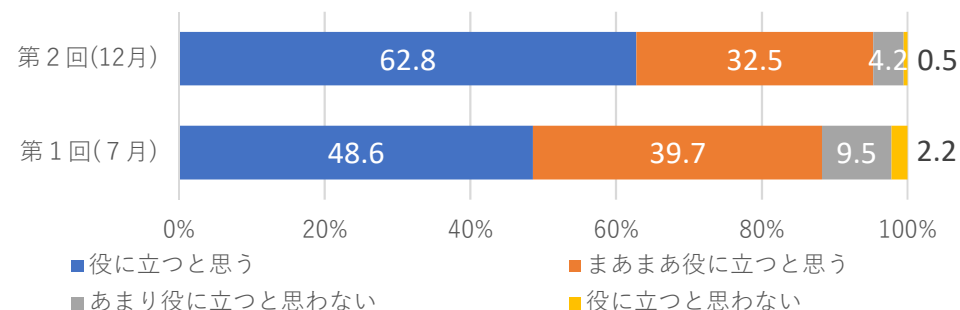
【児童の思考の可視化している様子】

■ 児童の変容

効果的に端末を活用した取組の成果

- 授業内外において、児童同士がやり取りする場面で端末を活用したことにより端末活用の有用性を実感する児童が増加した。
- 考えを整理したり、自分の考えをまとめる能力が向上するとともに、自ら効果的なアプリを選択することができるようになった。

「タブレットを使うことで、ともだちに意見や考えを伝えやすくなったと思う」



肯定的な意見が増加